

コラムを読み解く(中学・国語)

()中学校()年()組 氏名()

* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説
・蚊(か) ・刺(さ)される ・覚悟

(か・ご) 被害(ひ・がい)

・絶滅危惧種(ぜつ・めつ・き・ぐ・しゅ) = 絶滅に瀕(ひん)している動物や植物の種。

・生物多様性(せい・ぶつ・た・よう・せい) = 生物が分化・分岐してさまざまに異なること。種だけでなく遺伝子・生態系の多様性も含む概念。
・遺産(い・さん) = 死後にのこした財産。所有権や債権(さい・けん)などのほかに債務(さい・む)も含む。

・外来種(がい・らい・しゅ) = 人間によって渡来した、その地域には元来なかった種。
・幼虫(よう・ちゅう) ・駆除(く・じょ) = 追い払い、なくすこと。

・水生生物(すい・せい・せい・ぶつ) = 水中で生活する生物。

・捕食(ほ・しょく) = 捕らえて食うこと。

・根絶(こん・ぜつ) = 根元からすっかりなくすこと。根絶(ね・だ)やし。

・環境省(かん・きょう・しょう) = 公害をなくし、自然を守る仕事をする国の役所。

・希少種(き・しょう・しゅ) = 数が極めて少なく、まれにしか見られない種。

・捕獲(ほ・かく) = 動物などを生け捕ること。
・迷惑(めい・わく)

南風録

蚊に刺されるのを覚悟していたが、被害ゼロだった。大和村の人工池であった水生生物の観察会取材した時の話だ。水中にはメダカのような魚がたくさん泳いでいた▼メダカは今や、絶滅危惧種だ。「さすが、生物多様性が評価された世界自然遺産の島」と感心していたら、実は外来種の力ダヤシと教わった。名前の由来は「蚊を絶やす」。蚊の幼虫・ポウフラ駆除のために各地で導入された▼取材時に蚊がいなかったのは力ダヤシのおかげなのかもしれない。一方で、メダカなどの他の水生生物の捕食が問題となっている。そう考えると、喜べない▼外来種マングースの奄美大島での根絶を環境省が宣言してから、9月で1年となる。ハブ対策として導入されたが、希少種を捕食するとして2000年から本格的な駆除が始まった。捕獲されたのは約3万2千匹に上る▼「外来種にも命がある。必死に生きているのに申し訳なかった」。徳之島で問題となっているシロアゴガエルの駆除に参加した高校生の言葉が、印象に残る。外来種の被害予防三原則は、「入れない」「捨てない」「広げない」だ▼貴重な自然を次世代に残すためには住民意識の向上も求められる。先の人工池はさまざまな生物が生息できるような環境づくりが進む。きつと、蚊は増える。人間にとっては迷惑かもしれないが、でも、それが生物の多様性のはずだ。

2025年9月5日付1面

【問1】大和村の人工池にいたメダカのような魚は何でしたか。

()

【問2】「そう考えると、喜べない」とありますが、喜べないのはなぜですか。

()

【問3】奄美大島のマングースの駆除は、なぜ行われたのですか。また、約何匹捕獲されましたか。

()
約()匹

【問4】外来種の被害予防三原則を書きましょう。

()

【問5】貴重な自然を次世代に残すためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えを書きましょう。

